

## ○ 講演要旨 「少子高齢社会における住まい・まちづくり」

安枝 英俊 委員会アドバイザー  
京都大学大学院工学研究科助教



**長寿社会としての少子高齢社会** 少子高齢化の進行は、死亡率低下による長寿化と出生率の低下がその直接的な要因である。今まで経験したことのない人口構造の大きな変化への対応は、これからの住まい・まちづくりにとって重要な課題である。ただし少子高齢社会は、「高齢者が多い社会」として描くだけでは十分でなく、人の「一生が長くなる社会」、つまり「長寿社会」としても描く必要がある。長寿社会としての少子高齢社会は、就学、結婚、子育て、就業などの時期を個人の意思で選択できる自由が拡大することを意味するとともに、退職後の期間、子育て終了後の期間、介護を必要とするまでをどのように生きるのか、介護を必要とする期間であってどのように自立した生活を行うべきなのか、個人の意思で生涯計画を決定することが求められる社会なのである。

**洛西ニュータウンにおける少子高齢化** 洛西ニュータウン（以下「NT」と記載）における少子高齢化の動向をみると、1985年には15歳未満人口の割合が33.9%であったのに対し、2005年には12.6%になっている。一方、65歳以上人口の割合については、2005年において、全国では20.1%であるのに対し、NTは16.1%となっており、全国平均を下回っている。一方、2005年のNTの年齢別人口構成については、50歳から65歳までの人口が非常に多いことが特徴である。この世代はおそらく、今後もNTに住み続けることが予想されるため、10年後には、NTにおける高齢化率が急激に上昇することは明らかである。



**居住者の価値観の多様化** まち開きから30年以上が経過したNTでは、人口構造が大きく変化しているだけでなく、個々の居住者の価値観も多様化しており、従来の地縁に基づいたコミュニティが希薄化する一方、高齢者・子育て支援等に関するボランティア活動や、公園などの自然環境の運営に関わる活動が2000年頃から多数始動している。こうした活動の始動や、新たな参加は、個人の長い生涯計画に資する他者とのつながりを形成するだけでなく、NT内の資源の持続的な運営にもつながる。NTの将来像を議論する仕組みには、特定の価値観だけを受け入れるのではなく、多様な価値観が共存できることが求められる。個人の価値観が反映された様々な活動がゆるやかに連携することで、多様な価値観が共存するための仕組みを構築することができる。

**洛西ニュータウンの将来像の検討** 2006年11月に策定された「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」を踏まえ、2007年6月に発足した「洛西ニュータウン創生推進委員会」は、NT内のまちづくり活動の連携を通じて、多様な価値観が共存できる仕組みとして機能しなければならない。さらに、その将来像の検討にあたっては、NT内の自然環境だけでなく、公的集合住宅ストック等の人工環境の活用も含めた議論が不可欠である。少子高齢化の移行期にあるこの時期にこそ、個人の長い生涯計画に資する他者とのつながりを形成するとともに、多様な価値観が共存する仕組みの中で、NT全体に広がる自然環境はいうまでもなく、特定の学区・地域に存在する資源であっても、NTの再生に資する資源として、その活用方策を具体的に検討することが求められる。



講演後は、参加者との意見交換を実施しました。定住意識の高いNTの将来像をどのように描くのか、NT全体の視点からその再生を検討することの意義等、委員会の役割や方向性等に関わる議論が大変活発に行われました。

発行

平成 22 年 2 月  
洛西ニュータウン創生推進委員会  
(事務局：京都市西京区役所洛西支所まちづくり推進課)  
住所：〒610-1143 京都市西京区大原野東境谷町2-1-2  
電話：075-332-9318 FAX：075-332-8187



京都市印刷物 第215017号